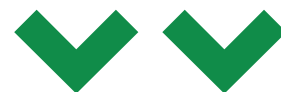


アクションプランの推進状況について

大崎耕土
世界農業遺産



大崎地域世界農業遺産推進協議会

**OSAKI
KOUDO**

GLOBALLY IMPORTANT
AGRICULTURAL
HERITAGE SYSTEMS

令和元年度の検討状況

フィールド
ミュージアム
構想検討部会

FM検討部会
7月9日

居久根保全
活用検討会
9月4日

居久根保全
体験会
11月30日

居久根保全
活用検討会
12月3日

FM検討部会
12月4日

12月25日

第3回アクションプラン推進会議

居久根検討会
3月2日

3月30日

大崎地域世界農業遺産推進協議会（書面決議）

認証制度
検討部会

登録申請
受付開始
5月

登録内容審査

検討部会
6月10日

生き物モニタリング
研修会
6月15、21日

生き物モニタリング
研修会
7月2、17、27日

認証申請
11月末まで

認証申請の
審査

検討部会
1月29日

人材育成関連

編集会議
副読本
6月28日

編集会議
副読本
7月29日

編集会議
副読本
8月20日

編集会議
副読本
8月23日

編集会議
副読本
9月17日

①フィールドミュージアム構想

《役割》大崎耕土の興味を促進し、地域資源のリサーチ、訪問時のサポート
観光客（来訪者）へ全ての情報を発信する入り口、「訪問前から訪問中まで」の重要なツール、また、地域住民への詳細情報の提供

- ・各地域のフィールドミュージアムマップをデジタル化し、地域資源の見える化
- ・案内板映像やPR動画、フォトギャラリー等、デジタル化ならではの見せ方
- ・各地域の農業遺産の地域ストーリーや散策ルートを掲載し、地域の魅力を表現
- ・観光客をサポートする位置情報を使用したナビゲーションと連動



映像やフォトギャラリーで
興味を促進

2019取組 WEB作成 一元的に情報を整理・発信～多言語対応～

令和2年3月リニューアル
URL:<https://osakikoudo.jp/>



映像

世界農業遺産
「大崎耕土」
OSAKIKOUDO
Globally Important Agricultural
Heritage Systems

ブランド認証

大崎耕土
世界農業遺産



OSAKI
KOUDO

認証品
CERTIFIED PRODUCTS

オオサキワンダーミュージアム
～人と大自然の青空博物館～

Web

(多言語化)

マップ

散策ルート

地域ストーリー

イベント・企画等の案内

2019取組 フィールドミュージアムマップ作成

《役割》大崎耕土の理解を深め、地域資源のリサーチ
観光客（来訪者）が情報発信拠点等で、気軽に手に取り、「訪問前～訪問時～訪問後」も利用できるマップ、また、地域住民が地域資源の新たな発見として活用

- ・ 11エリアごとの地域資源を地図やアイコンを使い、世界農業遺産「大崎耕土」をわかりやすい形で表現
- ・ 代表的な地域資源については、キュレーターにより歴史や詳細情報、想いを掲載



水管理(南原穴堰, 番水), 食・農耕文化(上伊場野芋, 御弓神事), 居久根を特集的に掲載

大崎耕土のいま

農業を支える、巧みな水管理システム

大崎耕土が世界農業遺産に認定された大きな理由のひとつが「農業を支える巧みな水管理システム」。先人たちの知恵が詰まったその一例をご紹介します。

南原穴堰

上野 孝作さん

1642年、徳川幕府に属する大崎藩が、大崎藩の領地である大崎地区に、南原穴堰を築きました。この堰は、大崎地区の農業を支える重要な施設です。上野さんは、この堰の歴史や仕組みについて詳しく説明してくれました。

番水の仕組み

菅原 聡一さん

大崎地区の農業を支える重要な施設である番水。菅原さんは、この仕組みについて詳しく説明してくれました。

大崎耕土のいま

幻の里芋を育てる、若手農家の挑戦

稲田 陽太さん

大崎地区の農業を支える重要な施設である上伊場野芋。稲田さんは、この芋の歴史や仕組みについて詳しく説明してくれました。

稲田さんおすすめ！上伊場野芋の食べ方

上伊場野芋は、大崎地区の農業を支える重要な施設です。稲田さんは、この芋の歴史や仕組みについて詳しく説明してくれました。

11エリアの地域資源を掲載し、地域の特徴を分かりやすく表現

2019取組 地域ストーリー&散策マップ

《役割》大崎耕土を深堀し更なる関心の促進、訪問のきっかけとなる散策ルート
観光客（来訪者）が、大崎耕土に興味を持ったあと、実際に訪れるきっかけとなるもの、また、地域住民が地域資源の歴史や知恵・技術など、学習に利用するもの

- ・ 11エリアの地域資源を整理し、地域独自の特色や歴史を表現したストーリーを作ることで、「大崎耕土」の魅力を創出
- ・ 自由に気軽に、魅力を見つけ学べる地域資源を巡れる散策ルートづくり



◆11エリアのストーリー

鳴子温泉：山間地の厳しい環境で営まれてきた水田農業
と米のおいしさを体感する

岩出山:伊達家のお膝元で発展した独自の食文化、 発酵食品と醸造業にみる魅力

田尻:一生に一度は見てほしい、視界一面に広がる
渡り鳥マガンの風景

古川:伝説の物語や地域最古の新田開発など、歴史の
浪漫に彩られた環境整備

三本木:江戸時代の大工事, 荒川堰用水, 居久根のある
美しい田園風景

松山：茂庭氏による新田開発と城下町の発酵食文化

鹿島台：品井沼干拓により大穀倉地帯となった鹿島台

加美町：城下を潤す蟬堰，人柱を立てて台の原越え

色麻町：大崎耕土を潤す水とおかつぱ様の伝承

涌谷町：日本初の金の産地「筧岳山」、農耕文化と

美里町：名鰯沼遊水地を中心としたしなやかな水管理、
災害を最小限にとどめる「減災」に通じる発想

◆散策ルートの設定

各エリアのストーリー踏まえ、知ってもらいたい資源を
中心に、徒歩での散策ルートの設定

2019取組 映像&案内板

《役割》フィールドミュージアムの体験

フィールドをミュージアム化し、観光客（来訪者）が現地を訪れ体験するためのもの、また、地域住民は実際に訪れ学習に利用するもの

- ・フィールドをミュージアム化する象徴として、マップや散策ルート等と連動
- ・看板上で写真や図を使い、分かりやすく表現
- ・地域資源情報の補足は、案内板映像やWEBで表現し、スムーズな連動



No.	スポット	エリア	看板場所候補
1	南原ホテルの里	鳴子	南原ホテルの里
2	ぬるめ水路	鳴子	みみずくホール
3	南原穴堰	鳴子	
4	鬼首菜	鳴子	鬼首公民館
5	内川	岩出山	有備館駐車場
6	岩出山凍り豆腐	岩出山	
7	田んぼの生きもの	岩出山	あら伊達な道の駅
8	八寸筒	田尻	八寸筒付近
9	マガンのねぐら入り	田尻	
10	サギのねぐら入り	田尻	蕪栗沼北側駐車場
11	番水の仕組み	古川	大崎土地改良区
12	ガンの飛び立ち	古川	化女沼観光資料館
13	田んぼとガン	古川	
14	居久根と生きもの	古川	道の駅おおさき
15	上伊場野里芋	三本木	上伊場野集会場
16	ため池・回復水利用	松山	松山金谷向田付近
17	品井沼遊水地	鹿島台	鎌田記念ホール
18	桂沢ため池	鹿島台	鹿島台駅
19	小瀬菜大根	加美町	薬師の湯
20	田んぼのノスリ	加美町	
21	切込の裸カセドリ	加美町	ゆ〜らんど
22	魚取沼と鉄魚	加美町	
23	鮎と鳴瀬川	加美町	あゆの里物産館
24	愛宕山	色麻町	愛宕山
25	鈴沼	色麻町	道路敷(薬師堂付近)
26	御弓神事	涌谷町	嵐峯寺
27	稲の棒がけと赤とんぼ	涌谷町	
28	居久根と暮らし	涌谷町	わくや直売センター
29	名鱈沼遊水地	美里町	名鱈沼石碑横
30	鳴瀬川のハクチョウ	美里町	花野果市場

2019取組 映像 & 案内板

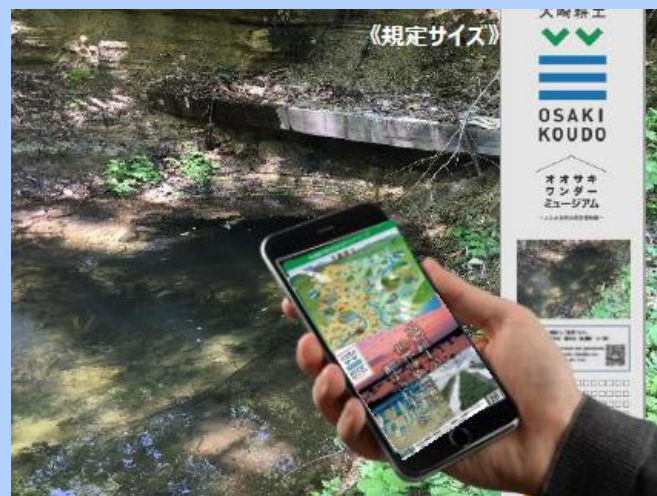
《役割》地域資源の理解と更なる関心の促進

観光客（来訪者）が現地を訪れ、フィールドミュージアムをより楽しむための映像，また，観光客（来訪者）や地域住民が映像を通じ，地域資源をより深く理解する機会として活用

- ・ 30の地域資源を映像化，地域住民が登場し，ストーリーや想いを収録（2分程度）
- ・ 地域住民や観光客等を対象としたイベント等において使用できる大崎耕土PR映像（5分程度）を制作



地域住民が深みや想いを語り，可視化を図る



2019取組 フィールドミュージアム拠点整備(道の駅おおさき等)

≪役割≫ 大崎耕土の認知, 興味, 検索, 体験すべての要素を持つフィールドミュージアムの拠点

観光客(来訪者)が初めに訪れる拠点, 訪問後はコンテンツを使い, 地域資源の魅力を表現, また, 地域住民の世界農業遺産「大崎耕土」の象徴

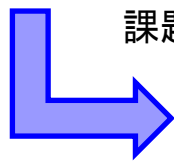
道の駅おおさき



田尻総合支所 情報発信室



課題・今後



- ・ 情報発信施設の充実
- ・ 拠点の拡張
- ・ 情報発信イベントの開催

2019取組 広報・プロモーション

《役割》大崎耕土の認知とブランド価値向上

観光客（来訪者）が大崎耕土を認知するきっかけ、興味を持ってもらうためのWEB等への誘導、また、地域住民へ地域魅力を表現

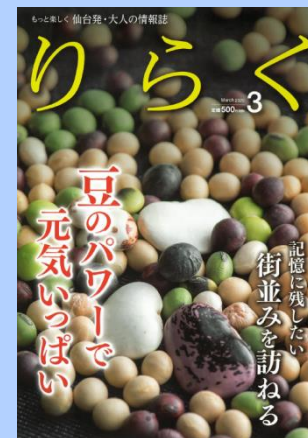
- ・各種イベントにおいて、360°VR映像、パネル等にて広報活動を実施
- ・SNS広告、雑誌掲載での情報発信、住民周知としてポスター等を作成



今年度、関東圏でのイベントに参加し、大崎耕土をPR



◆情報誌



◆SNS

(Facebook,youtube)



◆ポスター



2019取組 食・農作業体験等のコンテンツづくり

《役割》大崎耕土エリア全体の魅力発信，エリア全体での価値を認識
観光客（来訪者）が大崎耕土全体で長期的に訪れる周遊ルートを作成・検討，また，
地域住民は受入体制の検討・準備，地域間連携

大崎耕土ツーリズム研修会

・10月11日，「大崎耕土ツーリズム研修会」を開催。第1部の講演会には約80名が参加。第2部として1市4町の地域住民約40人が参加し，ワークショップを実施。居久根，水管理，生物多様性，食文化などをテーマに，課題や今後の可能性などについて，話し合われた。



スタディツアー

・2月13日～15日，「大崎耕土ジラススタディツアー」を開催。東京都のシニア層，約10名に世界農業遺産の資源を紹介。



世界農業遺産大崎(おおさき)耕土(こうど)
GIAHS(ジアス)スタディツアー
ガイドブック

厳寒の宮城で、
心温まるぬくもりと美味と、
世界的価値を体感する“感動交流”の旅
2020年2月13日(木)～15日(土)

首 新築に住んでおられる皆さんは、宮城県の大地域域をご存じでしょうか？ 耕土は仙台市の北の部、奥羽山脈の南麓に位置し、江戸時代より水田農業地帯として発展してきました。市内にある大崎農業試験場では、ササニシキやひとめぼれなどの品種が試験されてきた。宮城を代表する米どころです。また市内にはラムサール条約湿地「農業遺・農道水田」などがあり、10万羽を超えるサガンなど渡り鳥が越冬する国内で最大の渡り鳥の集結地です。2019年11月、東北で初めて「持続可能な水田農業を支える大崎耕土の伝統的水管理システム」が世界農業遺産に認定されました。

本 ツアーでは私たちが毎日食べているお米の歴史・大崎耕土の歴史や文化について、改めて地元の歴史や専門家が解説をお聞きするとともに心身ともに温まる“感動交流”を体験します。今後どのようなかわり（反応）が起きるか考えていただきます。

2 月中旬、山間地は雪深く、一年中最も寒い時期でもあります。9種類の農産物（日本には10の農産物があります）のある「地産地消」や、冬しか見られないマダムの機織りなど、この季節ならではの体験を特別に盛り込みました。世界のレベルの大崎の農業を体験した貴がらの生活の機軸に、春や秋にぜひ戻していただきたいと思います。

世界的に重要な農業遺産を営む地域（農村水管理システム）を、国際的な農業遺産（GIAHS）として認定する制度です。時代性にもわかって選ばれるべき伝統的な農業遺産、そして、その地域に伝わる文化や歴史などをもつ農業遺産として認定される地域に限定して行われる取り組みです。

大崎耕土は2019年11月、東北で初めて認定されました。

大崎耕土とは 「大崎市」「大崎町」の両方に広がる野田川や奥羽山脈を利用し、水田農業地帯として発展してきました。しかし、東北の水田農業地帯の減少による水田の「やまやみ」による水害や、山間地の高齢化や人口減少による耕作放棄地の増加などの課題が顕在化している状況です。農業者の継承や水田の維持を目的として、大崎市と大崎町が連携して「大崎耕土」です。

大崎耕土が世界農業遺産に認定されたポイント

- ①農産物を支える巧みな水管理システム
- ②多様な農産物と食文化の継承
- ③農産物と結びついた伝統的な食文化
- ④豊かな農村景観（ランドスケープ）
- ⑤大崎耕土が持つ文化

主に受入地域・商品化で活用

実施検証，今後のツアー商品としての整理

《役割》大崎耕土の魅力発信と地域住民の意識の醸成

観光客（来訪者）が大崎耕土に魅力に感じ訪れるコンテンツを作成・検討，また，地域住民は受入体制の検討・準備，課題の把握

◆地域住民が交流の伴う参加型・地域貢献型コンテンツづくり(11エリアのコンテンツ)

- ・「大崎耕土」の価値を伝えるためにはガイドの説明が必要，地域住民等との交流・地域貢献による地域とのつながりをつくるのが有効
 - ・ガイド付きのツアーや体験として，「大崎耕土」を深く知りたい関心の高い層（農・食・文化・環境の関心層）をターゲット
- 鳴子温泉:南原穴堰 堰払い体験，鬼首神楽 文化芸能体験
岩出山:居久根を食べるツアー，熱気球での空中探索と居久根散策
田尻:2万羽のマガンと出会う旅 撮影ツアー
古川:人の手で守り受け継ぐ化女沼の自然 化女沼自然保護活動
三本木:丘陵地における荒川堰用水路 隧道ハイキング，居久根の保全活動とおいしいごはん交流する，大釜の熱湯を浴びて安泰を祈願
松山:松山の日本酒づくりと美容体験
鹿島台:シナイモツゴの保護活動参加
加美町:蟬堰ウォーキング
色麻町:高級・高品質エゴマのオーナーになろう
涌谷町:簗峯寺に関わる精進料理で心と体のリフレッシュ
美里町:ぬか釜炊きおむすびと郷土の味

美里地区

ぬか釜炊きおむすびと郷土の味

ぬか釜は明治～昭和40年代頃まで使われた燃料にもみ殻を使うエコな釜です。もみ殻の利活用という農家の声から発明されたかまどは、当時農村地域では当たり前の存在で、このもみ殻でつくられたかまどは現在でも数多く残っています。

大崎耕土で育まれた郷土の味を最大限に楽しめる味わい方が体験できます。付け合わせにはシソ巻やすっぱこ汁など郷土の味わいを。

ぬか釜炊きと郷土料理体験

「ぬか釜」といっても、ぬかではなく「もみ」が燃料です。現代では薪や自動火の器で使われますが、この体験ではもみで炊く「もみかま」に火がついたら、一気に燃えて煙を吐き出さずともみ殻の力で炊き上げます。一気に炊き上げると、炊きあがりも早く、炊きあがりも美味しくなります。炊きあがりも早く、炊きあがりも美味しくなります。

◆季節のオプションツアー

春には田植え体験、秋には稲刈り・脱穀体験等、もみ磨りに至るまで、季節によってはおにぎり以外にも餅つき体験等も受け付けています。

アクセス

美里地区の地図と、ぬか釜炊きおむすびの体験場所の位置を示しています。美里地区は、大崎耕土の中心地であり、多くの観光客が訪れる場所です。ぬか釜炊きおむすびの体験は、大崎耕土の魅力を伝えるのに最適な体験です。

美里地区の地図と、ぬか釜炊きおむすびの体験場所の位置を示しています。美里地区は、大崎耕土の中心地であり、多くの観光客が訪れる場所です。ぬか釜炊きおむすびの体験は、大崎耕土の魅力を伝えるのに最適な体験です。

時間	内容
～11:00	美里地区の風景を撮影
11:00～11:15	オリエンテーション
11:15～11:35	もみ磨り体験
11:35～12:45	調理体験（炊飯準備10分、炊飯20分、おかず作り）
12:45～13:45	食事
13:45～14:00	片づけ
14:00	解散

項目	内容
時期	通年
所要時間	2時間程度
参加費用	2,500円
申込方法	美里地区の観光センターに電話
持ち物	-
その他	-

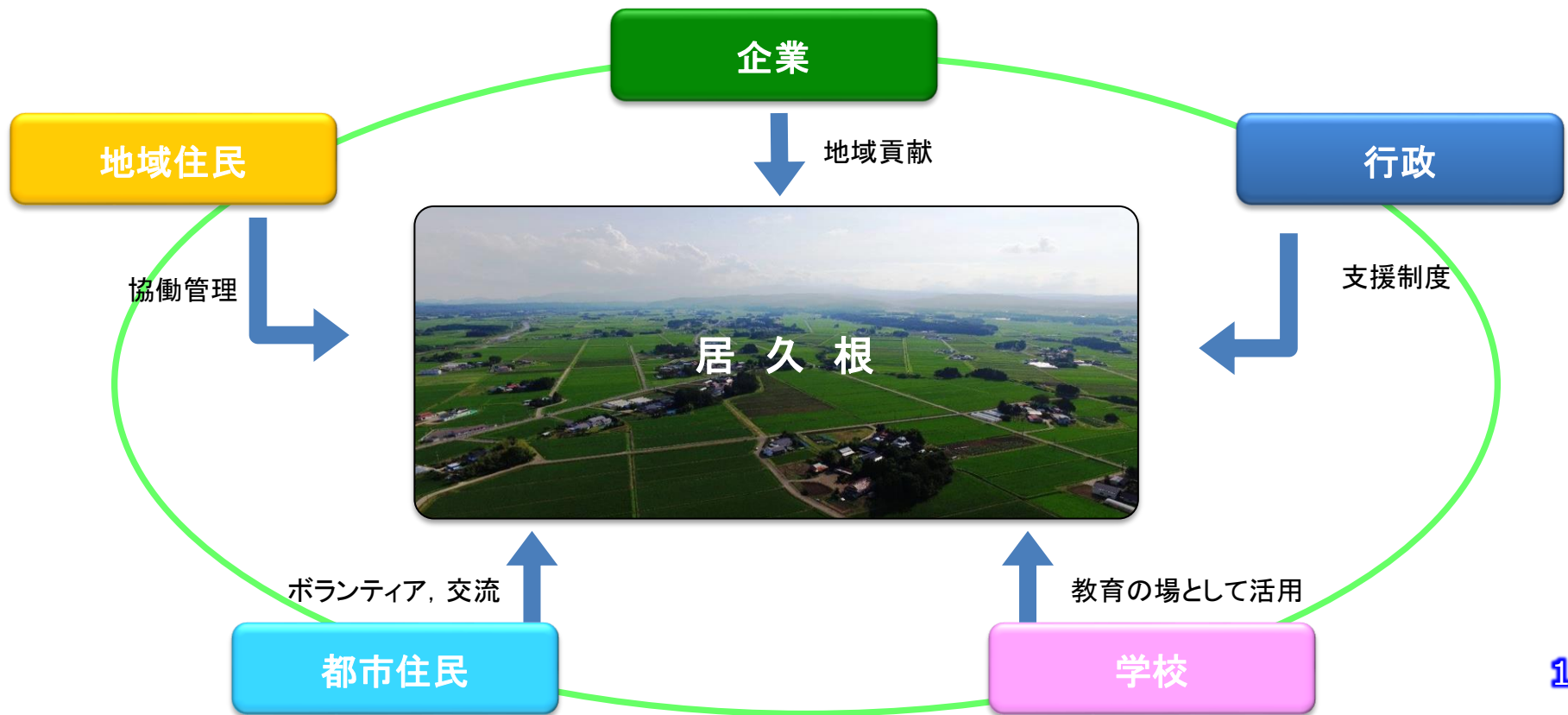
主に受入地域・商品化で活用

調査内容を整理し，必要に応じWEB，パンフレットに掲載

居久根の保全・活用について

居久根の保全・活用を目指して

- ・政宗公の資源管理の思想を現代に受け継ぎ，時代に合った居久根の保全・管理の在り方を所有者等に提示する。
- ・高齢化や高木化などにより個人での保全管理が困難となっている現状があり，地域ぐるみで保全・活用体制の検討を行う。



居久根の保全・活用に係る活動

【目指す方向】

居久根保全・活用のシステムが確立され、かつ、景観をはじめ、資源を巡るツーリズムを核とした交流人口の拡大に繋がっていく

保全・活用すべき居久根の見える化

居久根の価値、重要性
について共有される

- 未来に残したい居久根募集の実施
- データベース化(現在の居久根家屋数などの把握)
- 「(仮)居久根を食べる」体験等の企画の具体化
- 学校教育における学習の実施

共助

公助

共助による保全の推進

地域ぐるみで
保全される

- (地域貢献活動)の実施
- ボランティア活動の実施

公助による保全の推進

支援の仕組みが
設計される

- 居久根保全・活用の普及啓発パンフレットの作成
- 保全・活用推進の支援等の検討

居久根の保全活用の手引き(普及啓発パンフレット)

○対象:大崎耕土の居久根所有者・ボランティア・若者

○ページ数: 8ページ(カラー)

- 居久根所有者だけでなく、若者や地域外の人など、居久根を知らない人が居久根に興味・関心を持ち、居久根の大切さや、楽しみ方についてわかるもの。
- イラストや写真を中心に、目に焼きつき、居久根を知る最初のとっかかりとなるもの。
- QRコード等によりウェブサイトや動画とも連動させる。

紙面の内容・項目

- ① 居久根を知る
- ② 居久根を楽しむ
- ③ 居久根を育てる



「大崎耕土」 未来に残したい居久根 募集! ～見てけらいん!おらほの居久根～



「大崎耕土」は2017年12月に世界農業遺産に認定されました。

“「大崎耕土」未来に残したい居久根”では、大崎耕土全域に広がる、世界に誇る居久根の価値を共有し、居久根のある豊かな地域づくりにつなげていくために、「未来に残したい」、「見てもらいたい」と思える居久根の募集を行います。

居久根の価値の理解促進や交流等にご興味のある方、写真の提供など、ご協力いただける範囲で構いませんので、たくさんのご応募をお待ちしております。



応募期間・方法

令和元年10月10日(木)から令和元年12月27日(金)まで

応募様式に必要事項をご記入の上、居久根の写真を添えて、メール又は郵送でご応募をお願いします。

応募資格

大崎地域(大崎市,色麻町,加美町,美里町,涌谷町)に所在する居久根を持つ所有者など(自薦他薦を問いません。)

※他薦の場合は所有者の了解のうえ、申込をお願い致します。

応募特典

下記の品をプレゼントいたします。

- ・トローンで撮影したご自宅の写真(希望者全員) ※人口集中地区など飛行規制区域は除きます。
- ・3千円相当 大崎地域の地場産品抽選で10名様 ※賞品の発送をもって、当選の発表に代えさせていただきます。

共助による保全の推進 「居久根」の里で保全の体験会

- 1. 日 時：令和元年11月30日(土) 10:00～15:00
- 2. 場 所：大崎市沢田（沢田公会堂集合） 受入農家延べ3戸
- 3. 参加者：ボランティア参加者延べ11名、沢田地区8名、大崎市3名、あぐりねっと21延べ3名
- 4. 内 容

大崎市にある沢田上集落にある「居久根」の保全体験を3戸の受入れ農家に分かれ、保全のための作業を行いました。



②ブランド認証制度

世界農業遺産認証制度の創設

農産物の栽培及び生物多様性配慮等を合わせて総合認証するユニークな制度を令和元年度から実施（生き物モニタリングを義務付けた広域的な認証は“全国初”）

対象品目等

- 穀類：米，麦，大豆
- 野菜：伝統野菜，指定野菜（品目を指定）
- 肉類：牛肉，豚肉
- 加工品等：日本酒，大豆加工品（味噌・醤油），日本地理的表示認証「G I 認証品」，その他（ハム，ソーセージ類，その他発酵食品，菓子など）
- 工芸品等：宮城の伝統的工芸品登録品（鳴子こけし，鳴子漆器，岩出山しの竹細工，中新田刃物，切込焼）

令和元年度の取組み

- 穀類：米（農産物認証，モニタリング調査方法等が整っている品目）
- 年度内の優先検討品目（他の制度や製造方法が確立されている品目）
 - ➡加工品：日本酒，日本地理的表示認証「G I 認証品」
 - ➡野菜：伝統野菜（順次）

順次スタート

その他の品目については，穀類・野菜等の認証品目に関する加工品等を次年度以降検討。

認証制度の内容(米の認証)

対象作物・品目等

古川農業試験場で育種された品種であること

基本項目

認証対象

- 大崎地域内の生産者・生産者団体（属人）
- 大崎地域内で生産（属地）

個別要件

- 農薬化学肥料の削減

（宮城県慣行比5割削減）



- モニタリングの実施宣言

- ①初年：モニタリング講習会への参加

（協議会主催：1回／年以上）

- ②2年目：モニタリングの実施

（1回／年以上）

※実施時期の指定あり



選択項目（GIAHS視点）

- ①特筆した環境負荷低減の取組み

JAS有機農産物認証の取得



- ②GAPの取組み

GAPの取得による生産工程管理の実施

- ③農業農村の多面的機能を支える取り組み

多面的機能支払活動への参加（その他中山間地の活動）生物多様性向上の取り組み



- ④品種の多様性を保全する取組み

大崎地域を代表する希少品種を保全する取り組み



- ⑤世界農業遺産の価値を共有する取組み

産地と消費者の交流など交流事業の実施



世界農業遺産「大崎耕土」の価値を伝え・営みの持続可能性に貢献

米の認証の取り組み

米の認証スケジュール

申請者が行うもの

協議会が行うもの

登録申請

※初年度は5月から受付
(申請期間 4月1日～6月30日)

登録内容の審査

登録通知
生きものモニタリング講習会の案内

特別栽培＋モニタリング＋選択要件
実施

※1年目はモニタリング講習会の受講
モニタリングは2年目から

認証申請
(特別栽培＋モニタリング＋選択要件の実施実績)

(申請期間 8月1日～11月30日)

認証申請の審査

認証(不認証)通知

認証マーク印刷届
(マークを印刷する場合)

生産出荷実績報告書

提出期限 1月30日(毎年12月末までの生産出荷実績)

米の認証の取り組み



研修会の実施

認証要件である生きものモニタリングの研修会を開催

- ① 6月15日
- ② 6月21日
- ③ 7月 2日
- ④ 7月17日
- ⑤ 7月27日 計133人が参加

※個人申請については、各自研修の受講が必要
団体については、代表者あるいは確認責任者ほかが出席し、
独自に研修内の伝達をすることで実施。



申請状況

申請面積：630ヘクタール
申請者数：個人14，団体等8
(構成農家数342人)

※今年度の運用を踏まえて、来年度に向けて認知度の向上や
申請書式等の改善等を実施予定。

豊穡の大地「大崎耕土」世界農業遺産ブランド認証制度

～「大崎耕土」の人と環境を豊かにする認証～

- 農家の技術や意識の向上
- 地域住民や消費者の意識の向上
- 支え高めるシステムの確立

世界農業遺産ブランド認証

【次年度以降】

○フィードバック

- ・調査結果の集計と考察
- ・農業技術や生物多様性向上の(仮称)ヒント集を提供

農家・農業団体

保全活動 農産物提供

消費者

買い支え・参画

調査結果

推進協議会

専門家・NPO

認証品のPR・補完調査の実施

- 農薬・化学肥料使用量の削減
- 生きものモニタリング調査の実施
- 世界農業遺産の5つの項目の保全



より豊かな「大崎耕土」を
次世代へ

田んぼのモニタリング調査結果のフォローアップ（イメージ）

- ・調査記録表を推進協議会へ提出
- ・レーダーチャートにまとめることで個々の田んぼの現況の見える化

（例）アカトンボの数を増やしたい

ヒント集等の提供

3942 田んぼの生きもの調査 記録票

調査年月日 2020 年 6 月 20 日 / 時刻 9:00 ~ 10:00

天気 晴れ

調査場所 宮城 県 ○○ 市町村

調査者名 大崎耕土 農法 環境保全米

団体名

分類	指標群	場所	個体数	スコア	備考
農業の指標	1 アカトンボ	田面	3	スコア 3 6 11 個体数 0 1~4 5~	
	2 ヒメトンボ	田面	7	スコア 3 6 11 個体数 ~1 2~9 10~	
	3 ヒメトンボ	田面	8	スコア 3 6 11 個体数 0 1~4 5~	
土づくりの指標	4 カマキリ	田面	2	スコア 3 6 11 個体数 0 1~4 5~	
	5 カマキリ	田面	14	スコア 3 6 11 個体数 0 1~9 10~	
	6 カマキリ	田面	0	スコア 3 6 11 個体数 ~ 2~4 5~	
風致の指標	7 カマキリ	田面	1	スコア 3 6 11 個体数 0 1~2 3~	
	8 カマキリ	水路	0	スコア 3 6 11 個体数 0 1~2 3~	
	9 カマキリ	畦	17	スコア 3 6 11 個体数 ~3 4~14 15~	

※トンボは成虫とヤゴのスコアを比べて、大きな方を採用します

【秋版】

田んぼにおける生物多様性向上のヒント集

溝切りで水の溜まりを設ける



※写真は轍

ポイント

- 溝切りによってアキアカネやニホンアカガエルなど浅い水面に産卵する生きものの産卵場所になる

生物多様性アップのヒント

- 稲刈り後の水溜まりを作ることでアキアカネなどの産卵場所になる（数カ所程度で効果あり）
- アキアカネの産卵場所にするには排水路とつなげないことで、浅い水面を造る
- 春にも水が溜まると、ニホンアカガエルが産卵できる

留意点

- アキアカネの産卵には車輪の跡ぐらの深さの水深が良い

調査の感想、今後の展開など

畦に小さなカエルがたくさんいた。

※調査地の写真を必ず撮りましょう

© NP0tanbo 2019

認証マークの確定

浸透しつつある世界農業遺産ロゴマークをベースに「認証品」であることを強調するデザインに確定

【既存ロゴマーク】



- ・様々なものが芽吹く
- ・豊かな自然環境
- ・人々の暮らし
- ・居久根
- ・農業とそれに付随する産業
- ・多様な生態系
- ・水管理の歴史と継承
- ・江合川と鳴瀬川
- ・張り巡らされた用水路
- ・ため池や遊水地など

大崎耕土
世界農業遺産



OSAKI
KOUDO

認証品
CERTIFIED PRODUCTS

【認証マーク】

- 親和性：既存ロゴマークを活かしたデザイン
- 視認性：既存ロゴマークのイメージを継承し、「認証品」であることが明確
- メッセージ性：世界農業遺産「大崎耕土」の豊かな農産品であることを示す



③人材育成

教育機関等と連携した人材育成の取組

教育機関(中学・高校など)での人材育成

【総合学習等カリキュラムへの取込】

- 古川黎明中学校
- 古川黎明高等学校

【講師派遣】

- 6月17日:古川西中学校
- 6月20日:小牛田農林高等学校
- 6月27日:古川黎明高等学校
- 7月22日:加美農業高等学校
- 8月27日:加美農業高等学校
- 9月30日:古川黎明中学校



各種団体での出前講座実施

- 6月21日:大崎市田尻地域納税貯蓄組合連合会
- 7月 5日:古川人権擁護委員協議会
- 8月26日:加美町統計調査員協議会
- 10月18日:高倉地区公民館
- 11月 7日:大崎市古川郷土研究会
- 12月 6日:沢田地区 など

計97回

未来を担う子供たちの人材育成

○おおさき生きものクラブ活動

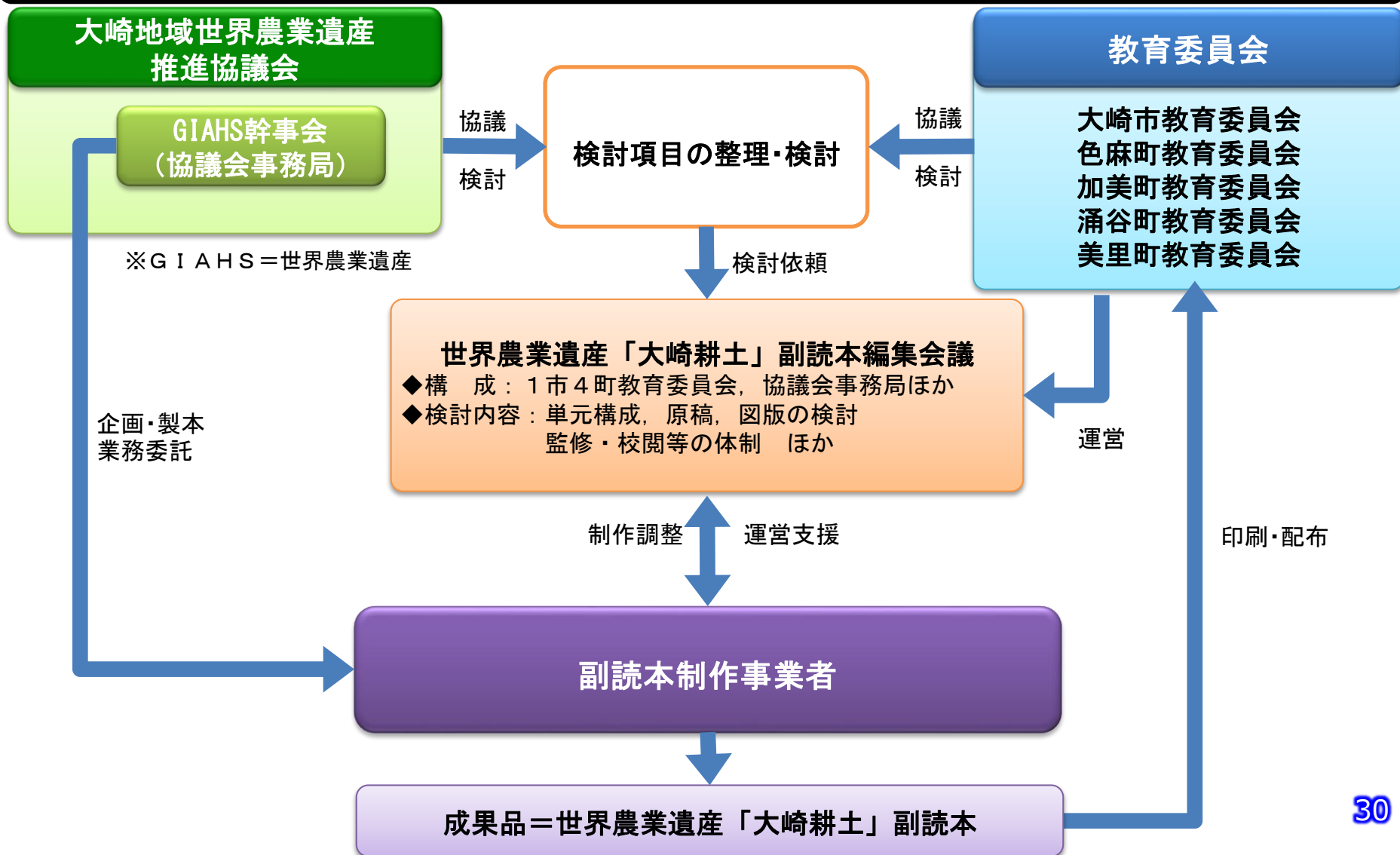
会員178名

- 春の食べられる植物体験
5月19日 33名参加(化女沼)
- シナイモツゴとゼニタナゴを守ろう
6月15日 49名参加(鹿島台)
- 田んぼの生きもの調査
6月30日 27名参加(田尻)
- 用水路での生きもの採集
8月24日 26名参加(鳴子)
- いぐねの里の自然体験
9月29日 34名参加(三本木)
- 野鳥の見分け方
12月1日 18名参加(蕪栗沼)
- ガン類のねぐら入り観察
1月18日(化女沼)



世界農業遺産「大崎耕土」副読本の制作

平成29年に国連食糧農業機関(FAO)より、世界農業遺産に認定された「大崎耕土」の世界的に重要な農業システムと、それを築きあげた先人の知恵と絶え間ない努力を次世代に伝え、誇るべき郷土の宝として継承していくことの大切さについて、一層の理解促進を図るため、令和元年度中に、1市4町の児童等を対象とした世界農業遺産副読本を作成



編集

- 児童が興味・関心を持ち、外部へ持ち出しての活用等、意欲的に学習に取り組めるような内容とする。
- 新学習指導要領を踏まえた編集内容とする。
- ユニバーサルデザインに配慮した紙面構成とする。
- 世界農業遺産「大崎耕土」の申請内容との整合性を図りつつ、難しい単語や表現については削除若しくは修正して記載する。
- 仕様 ○対象学年：小学校3年～6年生（約6,500人※1）
○印刷冊数：10,000冊※2
○ページ数：40ページ（カラー）

※1：令和2年度の3年生～6年生で試算

※2：内訳：児童 約6,500冊

＋先生用、教育委員会、事務局等 約3,500冊

作業

○1市4町より選出された11人の編集会議委員にて、計4回の作業を実施

- 6月28日 第1回編集会議
- 7月29日 第2回編集会議
- 8月20日 第3回編集会議①
- 8月23日 第3回編集会議②
- 9月17日 第4回編集会議

